元禄文化（げんろく）

文学	浮世草子（うきよぞうし）	「好色一代男」「日本永代蔵」「世間胸算用」「武家義理物語」など（井原西鶴（いはらさいかく））
	俳諧（はいかい）（俳句）	「奥の細道」など（松尾芭蕉（まつおばしょう））
	脚本	「曽根崎心中」「国姓爺合戦」など（近松門左衛門（ちかまつもんざえもん））
芸能	人形浄瑠璃（じょうるり）	義太夫節（竹本義太夫）
	歌舞伎（かぶき）	上方の坂田藤十郎，江戸の市川団十郎
絵画	装飾画	「燕子花図屏風」「紅白梅図屏風」など（尾形光琳（おがたこうりん））
	浮世絵（うきよえ）	「見返り美人図」など（菱川師宣（ひしかわもろのぶ））
工芸	友禅染（宮崎友禅），京焼（野々村仁清）など	
学問	朱子（しゅし）学（林羅山ら林家，新井白石など） 陽明学（中江藤樹など） 歴史学（徳川光圀「大日本史」） 天文学（渋川春海「貞享暦」） 農学　（宮崎安貞「農業全書」） 和算　（関孝和　「発微算法」）	
生活	年中行事（正月・節分・ひな祭り・七夕・盆踊り・月見など）， 菜種油を利用した行灯の使用が広がる	

ポイント1 背景と特徴

＿＿にあてはまる語句を確認しましょう。

① **背景**

幕藩体制下における

社会の安定・商業の発達・都市の繁栄など

② **特徴**

17世紀末～18世紀初めの5代将軍徳川 綱吉（つなよし） のころ，

上方（かみがた）（京都・大阪）の富裕な町人を中心に栄えた文化

ポイント2　文学・学問

＿＿にあてはまる語句を確認しましょう。

① 文学

浮世草子：現世（浮き世）を生きる人間のありのままの姿を描く
　井原西鶴「好色一代男」「日本永代蔵」「世間胸算用」「武家義理物語」など

俳諧（俳句）：連歌（れんが）の発句（ほっく）の五・七・五部分を独立させたもの
　松尾芭蕉「奥の細道」など

脚本：近松門左衛門「曽根崎心中」「国姓爺合戦」など

② 学問

中国の学問である儒（じゅ）学（がく）の発展がさまざまな学問の発展につながる

朱子学：林羅山ら林家，新井白石など（幕府に保護され主流となる）
陽明学：中江藤樹など（「知行合一（ちこうごういつ）」を唱え幕府に警戒される）
歴史学：徳川光圀（水戸藩主）「大日本史」の編纂開始
天文学：渋川春海「貞享暦」
農学：宮崎安貞「農業全書」
和算：関孝和「発微算法」

ポイント3 芸能・絵画・工芸・生活

＿＿＿にあてはまる語句を確認しましょう。

① 芸能

資料2 人形浄瑠璃（現代の文楽）

人形浄瑠璃：浄瑠璃に合わせ人形を操る芸能
竹本義太夫の義太夫節が流行
現在の文楽につながる。

歌舞伎：上方の坂田藤十郎（和事），江戸の市川団十郎（荒事）などの名優が登場し，常設の芝居小屋もできる

近松門左衛門が人形浄瑠璃や歌舞伎の脚本を書く

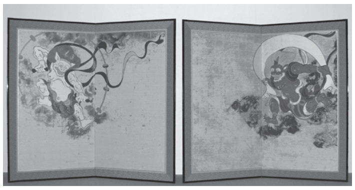
② 絵画

資料5 菱川師宣「見返り美人図」

装飾画：俵屋宗達「風神雷神図屏風」（江戸時代前期）
尾形光琳「燕子花図屏風」
「紅白梅図屏風」（琳派を創始）

浮世絵：**菱川師宣**「見返り美人図」（肉筆画）など

資料3 俵屋宗達「風神雷神図屏風」



資料4 尾形光琳「燕子花図屏風」

③ 工芸

友禅染（宮崎友禅），京焼（野々村仁清）など
江戸時代前期には京都で本阿弥光悦，肥前国有田で酒井田柿右衛門が活躍

④ 生活

年中行事（正月・節分・ひな祭り・七夕・盆踊り・月見など），
菜種油を利用した行灯の使用が広がる

確認テスト

次の問いに答えなさい。

(1) 17世紀末〜18世紀初めにかけて，上方（大阪・京都）の富裕な町人を中心に栄えた文化を何というか。　元禄文化

(2) 「日本永代蔵」などの浮世草子を書いた人物は誰か。　井原西鶴

(3) 「曽根崎心中」など，人形浄瑠璃の脚本を書いた人物はだれか。　近松門左衛門

(4) 「風神雷神図屏風」など，華やかな装飾画を描いた人物は誰か。　俵屋宗達